山 岳 遭 難 発 生 状 況

（令和８年１月１日～令和８年１月４日）
地域部　山岳安全対策課

１　山岳遭難発生状況（暫定値）　（令和７年数値は１月１日からの同期間数値）

区　　分	発生件数	死　者	行方不明	負傷者	無事救出	遭難者計
令 和 ８ 年	5	2	1	1	1	5
令 和 ７ 年	3	1	0	2	0	3
前 年 同 期 比	2	1	1	-1	1	2

２　山域別発生状況

区　　分		件　数	件数比率	死　者	行方不明	負 傷 者	無事救出	遭難者計
北ア	槍穂高	0	0.0%	0	0	0	0	0
	後立山	1	20.0%	0	1	0	0	1
	その他	0	0.0%	0	0	0	0	0
計		1	20.0%	0	1	0	0	1
中央アルプス		1	20.0%	0	0	0	1	1
南アルプス		0	0.0%	0	0	0	0	0
八ヶ岳連峰		1	20.0%	1	0	0	0	1
その他の山岳		2	40.0%	1	0	1	0	2
計		5		2	1	1	1	5

３　態様別発生状況

区　　分	件　数	件数比率	死　者	行方不明	負 傷 者	無事救出	遭難者計
転・滑落	0	0.0%	0	0	0	0	0
転　　倒	1	20.0%	0	0	1	0	1
病　　気	2	40.0%	2	0	0	0	2
道 迷 い	0	0.0%	0	0	0	0	0
落　　石	0	0.0%	0	0	0	0	0
雪　　崩	1	20.0%	0	1	0	0	1
落　　雷	0	0.0%	0	0	0	0	0
疲労凍死傷	1	20.0%	0	0	0	1	1
不明・他	0	0.0%	0	0	0	0	0
計	5		2	1	1	1	5

４　男女別・年齢別比率

区　分	男性 死者	男性 不明	男性 負傷	男性 無事	男性 計	（人）比率	女性 死者	女性 不明	女性 負傷	女性 無事	女性 計	（人）比率	男女計 人数	男女計 比率
１９歳以下	0	0	0	0	0		0	0	0	0	0		0	
２０ 代	0	0	0	1	1	1	0	0	0	0	0	1	1	2
３０ 代	0	0	0	0	0	50.0%	0	1	0	0	1	33.3%	1	40.0%
４０ 代	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
５０ 代	1	0	0	0	1	50.0%	0	0	0	0	0	0.0%	1	20.0%
６０ 代	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	2	2	2	2
７０以上	0	0	0	0	0	0.0%	0	0	0	0	0	66.7%	0	40.0%
計	1	0	0	1	2		1	1	1	0	3		5	
比　率	40.0%						60.0%							

（※　比率の計は、小数点の調整上、一致しない場合あり。）

先週の発生（1/1～1/4）

日付	場所	性別	年齢	死傷別	態様	概要
1月1日	中央アルプス 木曽駒ヶ岳	男	22	無事救出	疲労	単独で木曽駒ヶ岳から福島Aコースを下山中、疲労により、行動不能
1月1日	守屋山	女	63	負傷	転倒	２人パーティで守屋山山頂から下山中、雪でスリップし、転倒、負傷
1月2日	北アルプス 八方沢	女	33	行方不明	雪崩	２人パーティで八方沢をスキーで滑走中、雪崩に巻き込まれ、行方不明
1月4日	八ヶ岳連峰 南沢	女	61	死亡	発病	４人パーティで赤岳に入山し、テント泊中、発病
1月4日	黒斑山	男	59	死亡	発病	単独で黒斑山周辺に入山し、発病

山岳安全対策課からのアドバイス

1月1日から4日までの間、県内では2件の死亡遭難、1件の行方不明を含む、5件の山岳遭難が発生しました。

北アルプス八方沢で発生したバックカントリー遭難は、滑走中に沢に迷い込み雪崩に巻き込まれ、行方不明となっているものです。雪崩は、降雪や雪質に、気温の変化等の様々な条件が重なることで発生します。

入山する際には、数日前からの積雪状況や気温の変化等を確認し、雪崩警報や注意報が出ている場合には入山を控えることが大切です。

県内の山域では、降雪が続き、積雪量が増え、本格的なバックカントリーシーズンとなっていますが、バックカントリーは非圧雪、非整備の斜面を滑走するため、非常に高いリスクが伴うことを念頭に置き、慎重な行動を心掛けてください。

また、必ず雪崩対策装備であるビーコン、プローブ、スコップ**を携行するとともに、万が一に備え、正しく使用できるようにしておきましょう。**